

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果概要と改善策

令和5年4月15日（火） 第3学年 実施
旭川市立東明中学校

学力調査

質問紙調査

◎:全国より高い ▲:全国より低い

	成果が見られる設問	課題が見られる設問	課題への主な改善策	
国語	・目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる。 ・話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができる。 ・聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる。 ・事象や行為、心情を表す語句について理解している。 ・文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ・文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる。 ・古典の原文と現代語の文章とを対比させて内容を捉えることができる。	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができる。 ・文脈に即して漢字を正しく書くことができる。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。	・語句をほかの言葉で考える（他の言葉に置き換えるまたは、どういうこと（意味）か考えるまたは調べる）活動を意図的に入れる。 - 例えば、「おし量る」⇔「推測・推量・推理など」。 ・単に漢字だけを練習するのではなく、その漢字を使った熟語を考えさせたり、語句を使った短文を作成したりする活動を設け、語句の運用面の向上を図る。 ・「比較する」とはどういうことか、「工夫する（している）」とはどういうことかを考えさせてから、実際に比較したり、工夫している点を考える活動を設定し、交流したり発表したりする。 ・上記の活動に並行して、「比較する」活動として「共通点と相違点」見つける活動を設定したり、「工夫している点を見つける活動として「どんな効果があるか」を考える活動を設定する。 ・「意見と根拠の関係」と「具体と抽象の関係」を意識できる活動を設定する。例えば、自分の「意見」に「具体的な事象や事実」を「根拠」として用いて表現する活動を通し、「意見と根拠」と「具体と抽象」が互いにリンクしていることを意識させる。 ・書く活動で、説明したり自分の考えを述べたりする場合に、必ず「なぜなら」という接続の言葉と「例えば」という接続の言葉を用いて作文を作成する活動を設定する。	『肯定的な回答の割合が90%を超える設問』 ▲朝食を毎日食べている。 ◎自分にはよいところがある。 ◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。 ◎先生はわかるまで教えてくれる。 ◎人が困っているときは、進んで助けている。 ◎いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 ◎人の役に立つ人間になりたいと思う。 ◎自分の意見と違う意見について考えるのは楽しい。 ◎普段の生活で幸せな気持ちになる。 ◎学習の中でPＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器使用頻度。 ◎課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組む。 ◎話し合い活動で自分の考えを広げたり深めたりする。 ◎学級をより良くするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決める。 ◎道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。 ●肯定的な回答の割合が70%を下回る設問 ▲今住んでいる地域の行事に参加している。 ◎地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。△ ◎家で自分で計画を立てて勉強しているか？ ◎1、2年生の授業で自分の考えを発表する際に、自分の考えが上手く伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫した。
数学	・自然数の意味を理解している。 ・数と整式の乗法の計算方法を理解している。 ・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している。 ・反比例の意味を理解している。 ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 - 目的に応じて式を変形したり、読み取り、時柄が成り立つ理由を説明することができる。 ・四分位範囲の意味を理解している。 ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる。 ・条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を証明を振り返って読み取ることができる。	・累積度数の意味を理解している。 ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 ・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて説明することができる。	・累積度数のついての理解が不十分であるため、基本的な学習内容の定着を図るよう、知識・技能を高めるための復習の時間を確保する。	
英語	・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る。[聞く] ・社会的な話題に関する短い話を聞き、要点を捉える。[聞く] ・ある状況を描写する英文を読み、書かれた情報を正確に読み取る。[読む] ・日常的な話題について書かれた短い文章を読み、概要を捉える。[読む] ・与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会文を完成させる。[書く] ・相手の行動を促す（依頼する）表現を正確に書く。[書く]	・社会的な話題が書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。[書く] ・日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く。[書く]	・英作文（書くこと）においては、正答率はいずれも全国を上回っているが、正答の条件を満たしていながらも、語彙や文法上の誤りがある割合が全道、全国に比べて多いことから、基礎的な語彙や文法の運用に関して、復習する場が必要である。 ・生徒が書いた英文を推敲する際には、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切な内容になっているか、正確に書くことができているかを指導する必要がある。 ・内容や表現を改善していく上で、書いた英文に対して教師がフィードバックを与えたり、他の生徒からコメントをもらったりすることも大切である。	成 果 ◎いじめは許されない、困っている人を助けるなど、人として大切な資質を身に付けている生徒が多い。 ◎学校生活全般において充実感をもって生活している生徒が多い。 ◎新学習指導要領の実施に向けた、ＩＣＴ活用などの授業改善の積み重ねの成果が少しずつ表れている。 課 題 ▲コロナの５類以降に併せて、地域行事への参加を促すとともに、地域に貢献できる生徒の育成に努めたい。

学力向上に向けたロードマップ

学力向上に向けた今後の取組

全教育活動の改善へ

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
カリキュラム・マネジメント	■教育課程の編成 ■実施/評価/改善 → ■年度末評価 → ■教育課程の編成 ■実施/評価/改善																	
学力・学習状況調査等の活用	■調査/自校分析 ■分析結果/改善策の共有 ■調査/自校分析																	
授業改善	■主体的・対話的で深い学びの実践 → ■各種研修会への参加 → ■教科指導等研修 ■授業力向上プロジェクト/教育課程改善協議会（市教委） ■学びのカアンケート ■学びのカアンケート ■学びのカアンケート																	
学習習慣・生活習慣づくり	■学習の進め方指導 ■スクールイフ（振り返り） ■学習の進め方指導 ■「学習チェックシート」によるセルフマネジメント ■教育相談 ■教科相談 ■教育相談 ■教科相談 ■教育相談 ■教科相談																	

1 主体的・対話的で深い学びを視点からの更なる授業改善

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習過程の意識
- ・見通し～課題の設定と共有、課題や解決方法の見通し
- ・探究～自分で課題の解決、集団で課題の解決
- ・振り返り～学んだ内容のまとめ、自他の変容、次の課題意識
- 「学習課題」と「まとめ」の正対を意識した、身に付けさせたい資質・能力の育成
- ＩＣＴを用いて「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」をアクティブラーニングの視点とあわせて実施することで確かな学力の育成。
- 学びのカアンケート等の活用を含めたPDCAサイクルによる授業改善

2 望ましい学習・生活習慣づくり

- 「学習チェックシート」の活用によるセルフマネジメントの育成
- 教科オリエンテーションによる家庭学習への取り組み方のガイダンス
- ＩＣＴを活用した指導の個別化と学びの機会の確保